

「周南地域の子どものための日本語支援活動に向けての環境整備」

子どもの日本語教室「こどもにほんごクラブ」の実践活動

日本語クラブ周南 田辺ひかり

1. 活動の背景と課題

現在、山口県周南地域では周南市の委託を受け『日本語クラブ周南』主催で外国人生活者のための「地域日本語教室」、「対話型交流クラス」がおこなわれている。近年、外国人散在地域である周南市でも外国人住民は増加しており、それに伴い日本語学習支援を必要とする子どもたちも増加してくることが考えられる。しかしながら現状の日本語教室は、大人の支援を主としており、子どもの参加はほとんどない。また、今まで子供たちが在籍する学校や教育委員会との連携がとれていない。そのため外国ルーツの子どもたちの把握ができておらず、子どもたちとその保護者や学校関係者への日本語支援の情報が届いていない。そこで、来日して間もない、日本語が全くわからない状態のまま学校に在籍している子どもたちとその周りの関係者を対象とし、彼らが抱える困難を軽減し、支援をつなぐことができる体制を整えたいと考えた。

2. 現在までの活動報告

1)夏休み期間中の学習支援会(8月4・5・6日)の開催について

- ・「子どもの日本語支援活動について」→ 周南市国際交流推進担当者、『日本語クラブ周南』会員との打ち合わせ及び意見交換会
- ・夏休み期間中の学習支援会開催の広告作成
周南市小、中学校校長会での『日本語クラブ周南』の活動の周知
周南市教育委員会への連携協力要請
- ・山口県国際交流協会への広告作成依頼
- ・『日本語クラブ周南』外国人学習者、周南公立大学学生への翻訳協力依頼
(ベトナム語・英語・中国語)

2)子どもの日本語教室「こどもにほんごクラブ」の立ち上げについて

[試験的教室開催]

- 9月24日…参加子ども数0名
- 10月22日…参加子ども数(小学生1名)
- 11月26日…参加子ども数(小学生1名・中学生2名・10代1名)
- 12月24日…参加子ども数(中学生1名・10代1名)

[冬期開催]...『日本語クラブ周南』の講座内での開催

令和5年 1 月 7 日～2 月 25 日(毎週土曜日、計 8 回)

- ・『日本語クラブ周南』会員、周南市国際交流推進担当者への協力依頼／活動予定の話し合い
- ・ 山口県内の子どもの日本語教育関係者への周知
- ・『日本語クラブ周南』教室概要、スケジュール広告の作成、SNS による情報提供

3. 現在の進捗状況について

新聞、市の広報誌に 2.の 1)・2)の活動内容の掲載を依頼し、一般市民にも「外国人児童生徒への日本語教育支援」を知ってもらう機会を作った。このことで、外国ルーツの子どもへの日本語支援の必要性を周辺地域の人に知ってもらい、以前はなかった外国ルーツの子どもたちの情報を得ることにつながった。

親子で『日本語クラブ周南』の「対話型交流クラス」のイベントに参加があったり、個別に対応が可能な場合に限り、学校内での日本語支援に入ったりするケースがあった。

2.の 1)の夏休み期間の学習支援会には参加者がなかったが、『日本語クラブ周南』の「地域日本語教室」への問い合わせや受講者からの紹介により、10 月以降に子どもの参加があり「こどもにほんごクラブ」での支援活動をスタートした。「こどもにほんごクラブ」の試験的開催を終え、参加者アンケートには「引き続き参加したい、もっと日本語を勉強したい」との声があった。

令和5年 1 月からは『日本語クラブ周南』の冬期講座内の 1 クラスとして「こどもにほんごクラブ」を開催し、来年度 4 月以降の教室参加に繋げたいと考えている。また来年度からの『こどもにほんごクラブ』開催にあたって、会場と予算の確保も重要であり、『日本語クラブ周南』のほかの活動と同様に周南市の委託を受けて月 2 回の教室開催予定で活動ができるよう、市の担当者と引き続き話し合いを行っている。

4. コーディネーターとしての活動から

子どもの日本語教育支援活動を始めるにあたって、周南市担当者、『日本語クラブ周南』の会員との意見交換会を行うことができ、支援の重要性や必要性を理解してもらい、協力を得ながら活動を進めることができている。

コーディネーター研修の申込みをした当初には考えていなかった「子どもの日本語支援」に特化した「こどもにほんごクラブ」を新たに立ち上げることができたのは、『日本語クラブ周南』のスタッフによるサポートが得られたことによるものが大きい。また人脈を作ることで、様々な方面に情報が届き、外部からも協力を得られることが実感できた。特に地元新聞社の担当者から子どもの日本語教育に対する理解と協力を得られたことで、現在まで 4 回、活動内容の記事が新聞に掲載されている。

現在は日本語支援が必要な子どもの情報があつた際に、周南市以外の日本語教育関係者とも情報交換を行い、関係者へのアプローチの仕方、支援体制のあり方を模索している。

今後に向け公的な関係機関とも連携をとるためには、ある程度の実績が必要と考えられるため、個別の対応も含めた支援をおこなっている。

5. 今後の活動に向けて

今後、この教室活動を継続していくために考えるべき課題は大きく二つある。

一つ目は参加者と支援者の確保である。今現在「子ども日本語クラブ」への参加人数はまだ少なく、今後の活動のあり方を考えていくべきところである。参加が難しい理由として

① 外国人住民の「子どもへの日本語教育」に対する意識や優先順位が低いため、参加するまでにいたらない。

② 外国人散在地域であるために、開催地までの移動手段の確保が困難である。

③ 子どもを対象とするため、保護者の付き添い、サポートが必要不可欠である。

ということが考えられる。②、③に関しては支援者が個別に送迎をおこなうなどの対応をすることもあるが、個人的な負担は大きい。

また、子どもの日本語支援をおこなう場合は在日期间だけでなく、年齢差などにより個別の対応が必要な場合が多い。十分な支援がおこなえるよう支援者の確保も必要だ。

「子どもにほんごクラブ」は日本語の勉強のためだけではなく、子どもたちが日本で生活する中での社会関係資本を増やすためにも必要な場になると考えている。このことから、できる限り対面での様々な人間関係を築くことができる教室活動を、と考えている。幸い、来年度4月からの教室活動に地域の大学との協同した取り組みの話が進んでおりボランティア支援員としての学生の参加がかないそうだ。。年齢の近い日本語支援者と関わりを持つことで、子どもたちが具体的にライフコースを築いていくヒントを得たり、キャリア教育につながっていくことも期待している。

二つ目は学校や子どもたちへの情報は学校関係者、日本語教育関係者から個別に提供されており、市教育委員会との関わりはない。まだまだ当事者だけの困り事として、問題視されていないのが現状だ。当事者からも、できるだけ支援要請の声をあげてもらえるように働きかけているが、学校や教育委員会との繋がりを作ることは特に難しく、どのように連携をとっていくべきか大きな課題である。

地域の子どもたちがライフコースを築く上での課題を共に考え、誰もがエンパワーメントをおこなうためにも「こどもにほんごクラブ」の活動を継続していきたい。

広く情報を発信し、様々な分野との連携をおこなうことにより無支援状態の外国ルーツを持つ子どもたちに何らかの支援がつながるよう、今後も地道な活動が必要と考えている。